

令和4年度 全国学力・学習状況調査における調査結果

全国学力・学習状況調査の実施状況について

● 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

● 調査の対象

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、
 特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒

● 調査内容

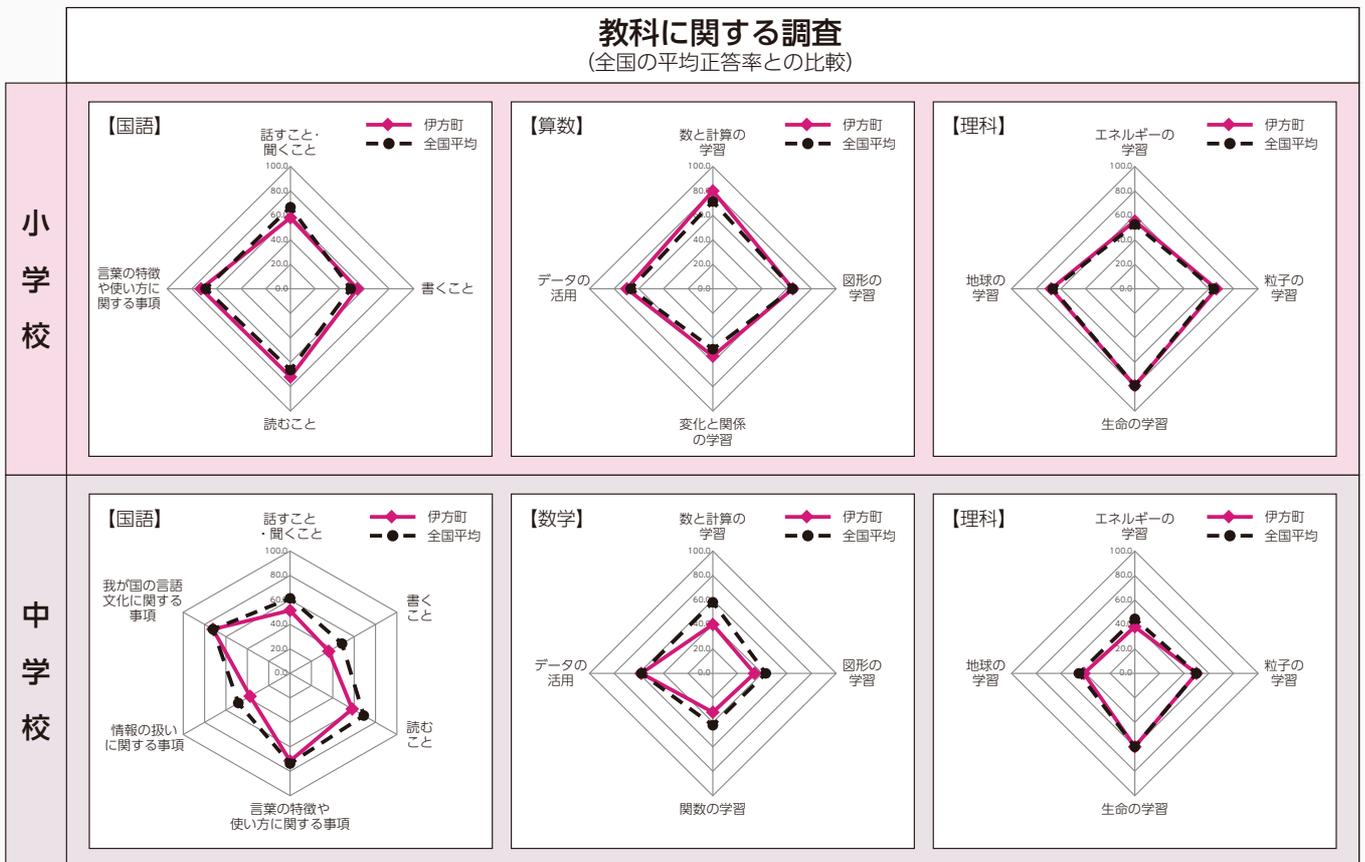
- 教科に関する調査（小学校は国語・算数・理科、中学校は国語・数学・理科）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

伊方町における調査結果の公表について

● 公表の趣旨

学力や学習状況の調査結果について、学校・家庭・地域みんながその情報を共有し、学力向上のためにどうしていけばよいかを検討して指導改善等に取り組んでいく。

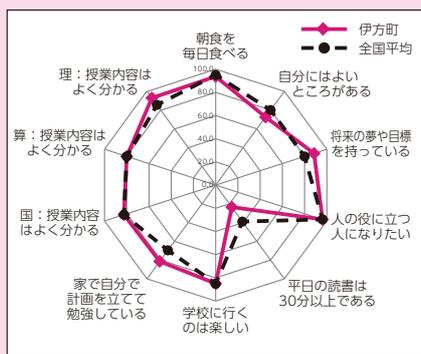
令和4年度 全国学力・学習状況調査における調査結果



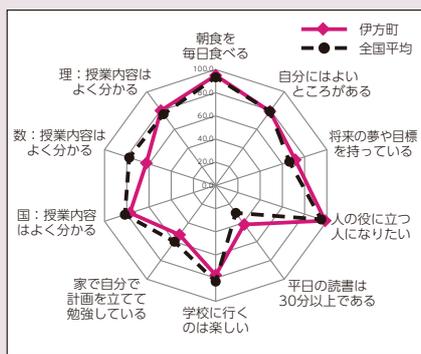
児童生徒質問紙調査

(全国の平均回答率との比較：肯定的な回答)

小学校



中学校



1. 結果の分析

《小学校》

- どの教科も、正答率は全国平均を上回っている。
- 国語は、昨年度の課題であった「読むこと」については、全国平均を上回り、改善がみられる。「話すこと・聞くこと」は、全国平均を下回っている。
- 算数は、全ての項目について、全国平均を上回っている。「数と計算の学習」では、大きく上回っている。
- 理科は、全ての項目について、全国平均をやや上回っている。
- 児童生徒質問紙調査では、「将来の夢や希望を持っている」の項目が、全国平均を上回り、改善の傾向にある。「自分にはよいところがある」の項目は、今回も全国平均を下回っている。前回改善の傾向がみられた「平日の読書」の項目が、今回は全国平均を下回っている。

《中学校》

- 国語は、「言語文化に関する事項」以外の項目は全国平均を下回っている。
- 理科は、「粒子」分野以外は全て全国平均を下回っている。
- 数学は、「データの活用」以外の項目が全国平均を下回っている。特に「数と式」の項目に課題がある。
- 児童生徒質問紙調査では、「平日の読書は30分以上である」の項目は全国平均を大きく上回っている。昨年度課題であった「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」は改善されている。一方、「家で自分で計画を立てて勉強している」「数学の授業内容はよく分かる」の項目は、全国平均を下回っている。



2. 改善方針

《小学校》

- 国語では、「話すこと・聞くこと」について力を伸ばす指導を継続する。また、「読み取る力」「まとめて書く力」の指導を継続する。
- 算数では、引き続きICT機器を効果的に活用するなどして個に応じた指導を継続し、基礎・基本の確実な定着を図る。また、「図形の学習」について、理解を促す指導の継続に努める。
- 理科では、引き続き基礎・基本の定着を図る。
- 学校や家庭において、明確な役割を与えるなどして生活を充実させ、自己肯定感を育てる。

《中学校》

- 国語では、文章を読み取り自分の考えをまとめる力を高めていく。
- 家庭学習への意欲を高め、学習の計画を立てて取り組む習慣を付ける。
- 数学では、プリントやICT機器などを使い練習問題を繰り返し行ったり、個に応じた指導を充実させたりして、基礎・基本の定着を図る。
- 理科では、実験・観察を通して学習内容の定着を図る。また、日常生活との関わりを意識した学習を展開し、興味を高める。

《小中共通及び家庭・地域との連携》

- 学校生活全般において、「話す・聞く」力を高める。
- タブレットでの家庭学習や電子図書等を活用する等、ICT機器を活用する機会を増やしていく。

3. 具体的な取組

《小学校》

- 国語では、読み取ることや考えをまとめて書くことの具体的な指導を継続する。各教科等を通して自分の考えを持って話し合う場を設定し、対話的な授業の実践に努める。
- 算数では、補充学習や個別指導の時間を確保する。タブレットを活用し、繰り返しドリル学習を進めることで、基礎・基本の定着を図る。
- 理科では、学年間の学習のつながりを大切にしながら、基礎・基本の定着を図る。学習したことを分かりやすくまとめる力をつける。
- 家庭や学校での読書を充実させるため、学校図書や町立図書館の電子図書を利用するなど様々な本に出会える環境づくりを工夫し、読書の楽しさを伝える活動を進める。

《中学校》

- 国語では、文章中の描写や表現から大事なポイントを見付け、内容を読み取ったり自分の考えを書いたりする場を設定する。また、引用したことを他者に伝えるための書き方を練習し、定着を図る。
- 数学では、生徒の理解度に合った問題の出し方や指導を工夫し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- 理科では、小テストを繰り返し行う。また、日常生活と関連させながら授業を進め、興味を持って取り組めるようにする。
- 自主学習ノートの頑張りを奨励して、家庭学習への意欲を高め、計画を立てて勉強する習慣を付ける。

《小中共通》

- 一人1台タブレットを効果的に活用し、学習意欲や視覚による学習の理解度を高める授業を行う。
- 集会などの交流の場を多く設け、成就感を味わわせる。様々な活動を通して、児童・生徒が、互いのよさや頑張りを認め合う場面を増やす。
- 対話的な活動を取り入れたり、発達段階に応じて新聞を活用したりして、話すこと・聞くことの力や表現力を育てる。

《家庭・地域の皆様へ》

- ☆子どもは、会話することで安心感を持つものです。その日の出来事や楽しかったこと、悩んでいることなど会話してみましょ。またその会話の中で、日本や世界で起きていることについても話題を広げてみるのもいいと思います。
- ☆褒められることで、意欲が高まります。家庭学習や読書に取り組んでいるときには、「よく頑張っているね。」「どんな本を読んでいるの。｣とお子さんに声掛けをしてみてはどうでしょうか。
- ☆コロナ禍の中で、地域行事が減っています。地域と児童生徒がつながるために、挨拶はとても大切です。お互いに挨拶を交わしていきましょう。